

# あゆみ通信

## VOL. 203

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会) 会長 細川 克彦 広報 本持 喜康

## 親鸞のことば

### 知ったかぶりをしてしまう私たち

### 善悪の字しりがおはおおそらごとのかたちなり

正像末和讃

現代は「一億総評論家時代」と言われます。インターネットでは、著名人だけでなく一般の人も様々の評論を積極的に展開しています。商品やお店の「レビュー」には、品質やサービス、使い勝手などを一般の人が評価する記事が載っています。そのレビューを参考にし、商品を選んだり、更には自分が購入した商品について、星数で評価したり、感想をレビューに書き込むこともあるでしょう。(中略)

親鸞は、これは善い、あれは悪いと判断するあり方を「善悪の字しりがお」と言い、「おおそらごとのかたちなり」(大きな間違い)と自戒を込めて警鐘を鳴らします。知ったかぶりはおよしなさいと言うことでしょうか。「よく知っているね」と言われると、思わずほくそえんでしまう、その心を問題にしています。「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり」が、仏教に出遇った親鸞の立場です。

## 気長付き合ひの教

ご存知のように、小生、昨年暮れから持病の脊椎管狭窄症からくる坐骨神経痛で歩行が困難になり、買い物など外出も出来ず、もちろん1月のあゆみの会の総会も、お寺詣りも出来ない日々が続いています。

そんなイライラや焦りを、即應寺の善隆前住職にメールすると、前住もなんと左足の痛みで膝に水がたまり、ヒアルロン酸の注射をして杖を突いて歩いているとのことでした。そして、「気長の養生」「いろいろするままのお念仏ですね」と返信をいただき、あらためて「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」と自覚しました。聞法第一。(本)

## 第41回同朋大会にご参集を

真宗大谷派 大阪教区第2組  
第41回 **同朋大会**  
音楽演奏会と記念講演  
2026年 3月7日(土) 午後2時~午後4時  
(受付は午後1時30分から)  
演奏：相愛大学音楽学部によるトロンボーンアンサンブル  
講師：梶 哲也 先生  
真宗大谷派 教学研究所助手  
真宗大谷派 大阪教区 立教開宗800年  
講題：老・病・死を見る—仏教の課題にみる「煩惱」の意義—  
会場：難波別院(南御堂) 同朋会館1階 講堂  
大谷派 宗門 立教開宗800年 記念品 有り  
参加費：1,000円(記念品贈呈)  
参加券

3月7日(土)に、恒例の第2組仏事最初の同朋大会が南御堂で開催されます。20

25年は大阪教区で慶讃YEARとして、4月には宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗800年慶讃法要が開催され、第2組の各寺院からも、また教区の全組からも多くのご門徒が参詣され、宗祖の御生誕を祝う、活気あふれる催しになりました。今回の第2組同朋大会では、久しぶりに、相愛大学音楽部によりますトロンボーンのアンサンブルが演奏されますと共に、宗門の新進気鋭の青年僧侶梶哲也先生をお招きしてお話いただきます。お誘いあわせの上で、ご参集ください。

日時 **3月7日(土) 13:30**  
(13:00から受付)  
会場 難波別院同朋会館講堂  
(地下鉄御堂筋線・中央線本町駅下車。⑬出口から南へ)

内容 お勤めと音楽演奏と記念法話  
講題「老・病・死を見る—仏教の課題にみる『煩惱』の意義」  
講師 **梶 哲也先生**  
(真宗大谷派教学研究所助手・大阪教区第27組正念寺衆徒)  
参加費 1000円(記念品有)

### あゆみの会総会開催

さる1月25日(日) 午後1時30分から、あゆみの会発足の記念すべき阿倍野区の即應寺(藤



井真隆住職)をお借りして、あゆみの会総会が、8名の会員と、第2組を代表して池田英二郎副組長(宗恩寺住職)にご参加いただいて、開催されました。

吉田雄彦副会長(法山寺)の進行で開会、真宗宗歌を斉唱。挨拶を細川克彦会長(佛足寺)、第2組から池田英二郎副組長からいただき、議事に入りました。まず事業報告と会計報告を、体調不具合の事務局に変わり、細川会長が行い、監査報告を細川孝子監査委員(佛足寺)が行い、参加者の拍手で承認されました。

続いて、事業計画案と予算案を細川会長から提案され、昨年と変わり、例会のご講師を第2組内に限らず、大阪教区からも選べるように提案された



ことと、また、第1回例会は「第2組同朋大会」や「大阪教区推進員の集い」に参加することで替えることが提案され、これも全員の拍手で承認され、総会議事を終了しました。

休憩後、ご講師の藤井善隆先生(即應寺前住職)から、「聞法の三要点」という講題でご法話をいただきました。

はじめに、池田勇諦先生が2023年4月ご本山での「宗祖親鸞聖人御生誕850年・立教開宗

800年法要」の最終日に話されたご法話の中で、「同朋会運動の三要点」として話された①実存の回復、②僧伽の回復、③近代の超克について、かみ砕いてお話をいただきました。

第1の「実存の回復」とは、自分自身(自己)をはっきりすること。それは自我ではなく、自己を回復することであり、自己に出会うとは思いを主体とするのではなく、無量のはたらきによって生かされている事実に出会うことであると。

第2の「僧伽の回復」とは、自分の外に自分を成り立たせている無量のはたらきがあるという事実立つとき、万物一体であると気づかされることであると。

第3の「近代の超克」とは、自我主義、理性主義は滅亡に向かわせる元であると言うことを自覚することであるとお話しくれました。その後、藤井先生を囲んで座談会を行い、最後に恩徳讃を唱和して日程を修了しました。(レポート：細川克彦)

## 第15回大阪教区全推進員の集い



大阪教区では、教区内の推進員を対象に年1回、推進員としての取り組みと課題を住職や寺族と共に確かめる「集い」を開催しています。今回は「同朋の会を広めよう」をテーマに下記のとおり開催されます。

なお、今回は意見発表の一人に、あゆみの会の活動報告を吉田雄彦副会長(法山寺)が発表されます。ご都合のつかれます皆様のご参加をお願いします。

記

日時 3月14日(土) 13:30  
 会場 難波別院本堂  
 対象 推進員、住職、坊主、寺族等  
 内容 お勤め、意見発表(2組、8組、17組、19組)、法話  
 講師 高間重光先生(19組了信寺前住職)

## 紙上法話

### 罪の深さと照らされる 即應寺前住職 藤井善隆



(前略) 一切のお経の根本が『大無量寿経』です。『大経』と略されます。これ、大きい小さいじゃあないんですよ。『大般若経』は600巻あります。でも、そう言う大きいんじゃない。『般若経』であろうが『法華経』であろうが『華嚴経』であろうが、経典は確かに立派な真理です。しかし、その真理を真理たらしめているものは何かと。その根本は如来であり、阿彌陀の本願。無量のいのちであり、無限の光です。そこからお釈迦さまがお生まれになって、その心を『大無量寿経』に説かれたのです。

だから親鸞聖人は『教行信証』で、「それ真実の教を顕さば則ち『大無量寿経』是なり」(教巻、聖典163P)と、おっしゃったのですね。

お釈迦さまは『大無量寿経』に如来となって興出した真実を顕したと。私たちは『大無量寿経』以外のお経に説かれている真理は悟れない。頭も悪いし、実行も出来ない。お釈迦さま以外は不可能なのです。遠の昔からその教えは廃れているのです。親鸞聖人は、同じく『教行信証』で、「聖道の諸教は行証久しく廢れ」(化身土巻聖典472P)とおっしゃってますね。

我々は、先ほども申しましたが、『數鬘少』に「罪惡深重(ほんの)煩悩盛」(第1章 聖典767P)とある凡夫です。我々は間違いなく罪惡深重の凡夫なんです。これは頷くしかない、この事実こそが唯一のごまかしよりの無い真理です。親鸞聖人はそれが分かった。この罪惡深重の凡夫である私たちを助けてくださる、如来の本願こそが真実の教えであつたと。

この身の事実を、何処までも掘

## 大推協通信

### 第52回近畿連区同朋の会推進員研修会

大推協(大阪教区同朋の会推進員連絡協議会)が参加する「近畿連区」では、ご住職とともにお念仏の教えを確かめ、語り合う場として研修会を下記のとおり開催します。

今回は、「慶讃法要からの歩みだしー推進員の原点に帰る」をテーマに開催されます。皆様のご参加をお待ちします。

記

日程 2026年5月25日(月) ~26日(火) 1泊2日

会場 信貴山観光ホテル  
 (奈良県生駒郡三郷町信貴山西)  
 テーマ「慶讃法要からの歩みー推進員の原点に帰る」  
 講師 酒井義一先生  
 (東京教区存明寺住職)

参加費 18000円(「大推協」より助成があります)

申込締切 4月20日(月) 厳守  
 お問い合わせ 細川 克彦へ

(電話 06-6779-5349)

り下げていくのが習法生活ですよ。「私の心を、底へ底へと下へ下へと、掘り下げていいたら、底から阿彌陀さまが出てきた」(榎本栄一氏) っつね。

樹を育てる時は、枝や葉とかにどんなに手をかけてもダメでしょ。根っこを育てないとダメです。

『根を養えば樹は自ら育つ』(柏樹社)と言う東井義雄先生の本があります。現代はそれを忘れています。頭ばかり育てている。

根を切ってどんな立派な行を積もうか学説を発表しようか高度な科学文明を築いても、それで人間が滅んでいくと言うことは、これを「いずれの行もおよびかたき身」

『數鬘少』第2章 聖典768P)と、親鸞聖人はおっしゃったのでしよう。「いずれの行もおよびかたき身」と言うことは何も出来ないと言うことじゃあないです。皆、相当偉いことをやっています。

しかし、何をやってみても、我執をもとに、自我を中心に立っておれば、助からないと言うことですね。(次号へつづく)